小学校　国語２０　（平成 28 年度）

第６学年　国語科　学習指導案

１　単元名　心に響くことを考えながら読もう
～読書座談会で「いのち」について見つめ直そう～

教材名：　海のいのち，立松和平「いのちシリーズ」

２　単元の目標

○　登場人物の生き方や叙述に対する自分の考えをもち，話合いに意欲的に参加しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】

○　シリーズ作品における「いのち」を捉えられる表現や登場人物の心情を描く描写などの優れた叙述に着目して読むとともに，感じたこと・考えたことと関係付けたり比べたりすることで，「いのち」についての自分の考えを深めることができる。【読むこと（エ）（オ）】

○　語感・言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（イ(ｶ)）】

３　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解
立松和平の作品や叙述に対する自分の考えをもち，それを意欲的に表現したり，交流したりしている。	・「いのち」を捉えられる叙述や他の作品とつながりのある言葉，登場人物の葛藤や心理的な成長を描いた描写などに着目して読んでいる。（エ） ・シリーズ作品を関係付けたり，友達の意見との共通点や相違点を見付けたりしながら「いのち」についての自分の考えをまとめている。（オ）	語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもち，自分の心に響く叙述や「いのち」に関係する表現を捉えている。（イ(ｶ)）

４　単元と指導の構想

（１）　単元と児童

児童はこれまでの学習において，中心人物の心情描写に着目し，自分の体験を基に登場人物に共感したり，作者の思いを想像したりしながら読むことを経験している。また，初発の感想を共有して学習計画を立てたり，単元を貫く言語活動に取り組んだりすることで，目的をもって教材文を読んだり，登場人物について自分の考えをもったりすることができるようになってきた。

しかし，１学期の「風切るつばさ」には，中心人物の心情描写が直接的に書かれていないため，対人物の行動が中心人物の心情に変化をもたらしたことをなかなか理解できない様子が見られた。叙述を根拠に自分の考えを述べることができる児童は６割程度であった。

普段の学習においては，友達の発言や考え方を引用して振り返りを書くことができるようになってきている。また，児童アンケートの「友達と話し合うと考えが変わったり新しい考えが浮かんだりしますか」という質問に対し，ほぼ全員が肯定的評価をしているが，話し合うよさを具体的に挙げられる児童は少ない。これらのことから，互いの考えを関連付けてよりよくしようとしたり，話合いによって自分の考えが広がったり深まったりしたことを実感できるようにしたいと考える。

そこで本単元では，かかわり合いを通して，気付いたことや考えたことを叙述を根拠に語り，自分の考えを広げたり深めたりすることに重点を置き，読書座談会を言語活動に位置付ける。ここでの読書座談会では，４～５人のグループで，「いのちって○○」というテーマを中心に，自由な雰囲気の中で話し合う中で，物語の読みを通して強く心に響いたことを自分の言葉で他者に伝えたり，他者の読みを受け止めて考えを述べ合ったりすることを目指す。教科書教材の他に「いのちシリーズ」を取り上げる。

（２） 指導の構想

ⅰ　目指す子ども像と「海のいのち」を読む活動

児童は，道徳の時間に「いのち」について考え，「自分のいのち」に目を向け，その大切さを捉えている。本単元の学習に入る前に，その捉えを再確認してから立松和平の「いのちシリーズ」と出会わせる。

本単元では，初発の感想から，「海のいのち」から感じられる「いのちって○○」とそれを感じる叙述を挙げさせる。読書座談会では「いのちって○○」をテーマに，叙述から捉えたことや互いの考えを関連付けて考え，語り合えるようにする。また，「いのちって○○」を考えながら叙述に即して読んだり，互いの考えを交流し合ったりしたことで自分の「いのち」についての捉え方に広がりや深まりがあったと自覚し，自分なりの考え方を再構成できる子どもを目指す。

ⅱ　並行読書

並行読書として立松和平の「いのちシリーズ」の中の「山のいのち」「川のいのち」「田んぼのいのち」を取り上げる。いずれの作品も「いのちがつながっていること」を読み取ることができる。これは道徳の時間に児童が捉えた「いのちって大切」「いのちってたった一つ」等とは異なる。読書座談会で交流することを通して.シリーズの作品世界を交流するとともに，自分自身の「いのちって」を広げ深められるようにする。「いのちシリーズ」は，図書館司書によるブックトークで出会わせる。「『いのち』について考えたことのあるみなさんだから作品に込められている『いのち』を感じてください。」という内容で紹介してもらう。

作品については，俯瞰的に読めるように全文を一枚のプリントにして配付し，朝学習や読書の時間に読むこととする。叙述に即して読む力を高めるために，サイドラインを引いたり，付箋を活用したりしながら読むようにさせる。

ⅲ　読書座談会

読書座談会は単元を通して２回行う。「□□のいのちって○○」をテーマとする。ここでの読書座談会の目的は，友達と考えを交流し深めること，話題に対して自分なりの考えをもつこととする。

１回目の読書座談会は，４～５人のグループで教科書教材「海のいのち」について「海のいのちって○○」をテーマに行う。２回目は，並行読書で読んだ「いのちシリーズ」の中から児童が一つ選び，同じ作品を選んだ児童同士で，「□□のいのちって○○」をテーマに行う。いずれの読書座談会においても，「いのちって○○」を感じたり考えたりした根拠となる叙述にラインを引いたり，メモをしたりしながら話し合うようにする。グループでの話合いでまとまった「いのちって○○」とその根拠となる叙述を紹介し合う。全体で共有，確認した後，本時の学習の振り返りとして，自分なりの「□□のいのちとは○○である」を頭括型で５文程度で書く。

また，より多くの児童が主体的・意欲的に学習に取り組むことを目指し，単元を通して，次の３点に留意して学習を進めたい。

①　学習シートの工夫

読書座談会は叙述を根拠としながらも話し合うことが中心の活動である。読書座談会に向けての自分の考えは，教材文に線を引いたり，考えを思い出せる程度のメモをしたりする程度とする。また，読書座談会においては，グループで１枚の学習シートを使うことで話合いの可視化を図る。

②　話合いを活性化させる役割と話形を提示する

話合いにおいて考えを深めていくことができるように交流するためには，分からないことをその場で質問したり，納得がいかないことについては反論したりする必要がある。考えを深めるために必要な「やりとり」を役割話形として提示する。

〈役割と話形の例〉
共感する「わたしも～」「～が似ていて」
分からないと言う「よく分からないから詳しく話してくれますか」
質問する「～って例えばどういうことですか」
反論する「確かに～だけど」

これらの役割は固定化して担うのではなく，話合いの中で流動的に変化するものであるが，「役割」として意識させることで，意見の述べ合いだけに終わらな

い話合いができると考える。

③　考えを深めた過程が分かるように振り返りを書く

自分の「初めの考え」と学習を終えた「終わりの考え」を比べて気付いたことや友達の考えについて共感できたことやそのよさを「振り返り」として書かせることで，学びを自覚させる。

５　単元の指導計画（全９時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）		評価 関	評価 読	評価 言	評価規準
1	○　単元全体の学習の見通しをもつ。 ・　道徳の時間の「いのち」の捉えを確認する。 ・　図書館司書による「いのちシリーズ」の紹介を聞く。 ・　立松和平の作品を中心に「いのち」について読書座談会を通して考えを深めるという学習の流れを捉える。	並行読書	○			・　読書座談会に興味を持ったり，「いのちシリーズ」の紹介を聞いて疑問に思ったりしたことなどを振り返りに書こうとしている。 （振り返りの記述）
2	○　「海のいのち」を読み，初発の感想を書く。 ・　登場人物やあらすじ，語句の意味等を確認する。 ・　「海のいのちって○○」が感じられるところやその理由，読書座談会で話題にしたいことを中心に初発の感想を書く。 〈初発の感想の項目〉 ①　自分の捉えた「海のいのちって○○」 ②　友達と話し合いたいこと ・　強く印象に残ったこと ・　疑問に思うこと （叙述について自分なりの考えをもっているけどみんなはどうかな。この叙述の意味が分からないから聞いてみたい。話の流れとして謎だから話し合いたい。等）	並行読書	○	○		・　学習の見通しをもって初発の感想を書いている。 （学習シート）
3	○　「海のいのち」座談会の準備をする。 ・　初発の感想を交流し，全グループで共通して「海のいのちって○○」をテーマに話し合うことを確認する。 ・　強く印象に残ったことや疑問に思ったこと等の中からグループで話し合いたいことを決め，グループの話題シートに書き込む。		○	○		・　初発の感想や叙述をもとに読書座談会の話題を考えている。 （発言・話合いの様子・学習シート・ノート）
4	○　読書座談会の話題について，自分の考えを整理する。 ・「海のいのち」を読み，グループの話題について自分の考えを学習シートにメモする。			○	○	・　グループの話題について自分の考えをもっている。 （学習シート）
5	○　「海のいのち」座談会を行う。	並				・　読書座談会の中で，

本時	・　グループで話し合い，「海のいのちって○○」を決める。 ・　グループの話題について話し合う。 ・　各グループの「海のいのちって○○」を紹介し合い，根拠となる叙述を全体で共有する。 ・　本時の学習を各自で振り返り，「海のいのちって○○」をまとめる。	行 読 書		○	○	話題について自分が考えたことを伝え合い，友達の考えに共感したり互いに確かめ合ったり深め合ったりしている。 （読書座談会の様子・振り返りの記述）
6	○　選んだ「いのちシリーズ」の読書座談会の準備をする。 ・　前時の振り返りを紹介し合う。 ・　２回目の読書座談会で，共通して話し合うとよいことを考える。 ・　２回目の読書座談会に向けて，もう一度読みたい作品を決める。 ・　各自が選んだ「□□のいのち」を読んで，考えをまとめる。 ①　自分なりの「□□のいのちって○○」 ②　友達と話し合いたいこと　・ ・　強く印象に残ったこと ・　疑問に思うこと		○	○		・　「海のいのち」と関連させたり，叙述をもとにしたりして読書座談会の話題を考えている。 ・　本時までの学習をもとに，２回目の読書座談会に向けて作品を選んでいる。 （発言・ノート）
7	○　「□□のいのち」を読み，グループの読書座談会の話題について，自分の考えを整理する。 ・　グループの話題を決める。 ・　グループの話題について自分の考えを学習シートにメモする。			○	○	・　グループの話題について自分の考えをもっている。 （学習シート）
8	○　「□□のいのち」読書座談会を行う。 ・　グループで話合い，「□□のいのちって○○」を決める。 ・　グループの話題について話し合う。 ・　話し合ったことを全体で紹介し合い，「海のいのち」と関連させて「□□のいのち」を捉える ・　本時の学習を各自で振り返り，「□□のいのちって○○」について自分の考えをまとめる。					・　読書座談会の中で，話題について自分が考えたことを伝え合い，友達の考えに共感したり互いに確かめ合ったり深め合ったりしている。 （読書座談会の様子・振り返りの記述）
9	○　単元の学習をふり返る。 ・　前時の「□□のいのち」座談会で話し合ったことを紹介し合う。 ・　自分の「いのち」に対する考えを整理する。		○	○		・　単元の学習前の自分の考えと比較しながら学習をふり返っている。 （発言・ノート）

６　本時の計画（５/９時間）

（１）　ねらい

読書座談会で，叙述から捉えられる「海のいのちって○○」を交流することを通して，作品から感じられる「いのち」について自分の考えをまとめることができる。

（２）　構想

児童は，初発の感想で自分なりの「海のいのちって○○」を書いている。本時は，それを基に作品から感じとったことを交流し合い，「海のいのち」から伝わってくる「いのちって○○」の捉えに広がりや深まりをもたせたい。

まず，読書座談会において「海のいのちって○○」をグループの考えとしてまとめさせる。各自が感じとったことの根拠となる叙述を明らかにしたり関係付けたりしながら話し合うことでグループで「海のいのちって○○」を決める。また，「海のいのちって○○」を考えるために必要なことについては自由に話し合うこととする。

【手立て１】　読書座談会での役割と話形の例示
　読書座談会は自由な雰囲気の中で行うが，意見の述べ合いだけで終わらないようにするために，役割と話形の例を示す。役割は固定化するのではなく，話合いを進める中で流動的に入れ替わるものである。
【手立て２】　話合いを可視化する学習シートの工夫
　話合いを可視化するために，グループで一枚の学習シート（教材全文一枚プリント）と付箋を用いる。「いのちって○○」は付箋に書き，その根拠となる叙述には線を引く。関連があるところを線でつないだり，話し合ったことを書き加えたりながら座談会を進めさせる。

次に，グループで決めた「海のいのちって○○」を全体で紹介し合い，根拠とした叙述を共有する。児童の発言を関連付けたり整理したりしながら，人物の心の葛藤や変化，人物同士の関係から読み取ることができることを確認する。
「振り返り」では，友達と交流したことをふまえて自分なりの「海のいのちって○○」を頭括型で書かせる。

（３）　展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応（含む学習内容）	■評価規準（観点／方法）○留意点
導入 １　本時のめあてを確認する。 ２　読書座談会の進め方を確認する。 （７分）	T1　「海のいのちって○○」について，読書座談会を通して考えましょう。 読書座談会で「海のいのちって○○」を考えよう T2　次のように進めましょう。 ・　初発で各自が書いた「海のいのちって○○」を紹介し合う。根拠も示す。 ・　グループの学習シートに線を引いたり関係があるところは線でつないだりして書き込みながら進める。 ・　「海のいのちって○○」は付箋に書く。 ・　「海のいのち」から伝わってくる「いのち」について考え，グループで考えをまとめ「海のいのちって○○」を決める。	○　めあてのラベルを位置付ける。 ○　読書座談会の進め方や学習シートの使い方について説明する。 ○　進め方についての説明や確認を終えてから机の向きを話し合いの隊形に変えさせる。
展開 ３　作品から伝わってくる「海のいのちって○○」について話し合う。 （１５分）	作品から伝わってくる「海のいのち」とはどんなことだろう。 T3　読書座談会の後で，各グループの「海のいのちって○○」を紹介し合います。話し合う時間は，１５分間です。始めましょう。 C1　ぼくは「海のいのちって大事」と書きました。「千匹に一匹でいい」という言葉が一番大事だと思って，魚の命を大事にしていることがわかるからです。 C2　わたしは「海のいのちって大魚」っ	○　課題のプレートを位置付ける。 ○　読書座談会の進め方や役割と話形の例を参考にするが，自由な雰囲気で意見を述べ合うことを優先させる。 ○　初発の感想で書いた「海のいのちって○○」の紹介から始め

	て書きました。なんか変だけと，太一がクエをみつけたところの「大魚はこの海のいのちだと思えた」ってあるでしょ。ここが大事な気がするからです。 C3　大事な気がするってどういうこと？もう少し教えてくれる？。 C4　だって題名が出てくるでしょ。この話にとって大事かなと思って。 C5　でもさ，やっぱり「海のいのちって大魚」ってなんかちょっとさ。 C6　みんなの考え聞いてからまた考えよう。 C7　そうだね。わたしは「海のいのちってつながってる」にした。「ずっとこの海で生きていけるよ」というところからそう思いました。 C8　似ているんだけど「海のいのちってつながる」って書いたよ。でもぼくは，与吉じいさが「海に帰った」とか死んだおとうが海にいるとかいうところからそう考えたよ C9　「おとうここにおられましたか」か。太一のおとうってクエになったの？ C10　違うよ。「そう思うことによって」だから，おとうがクエになったんじゃないよ。太一が殺そうと思えば殺せたけどおとうだと思ったら「殺さないですんだ」 C11　大魚は殺しちゃいけないってことか。 C12　なんで太一はクエを殺さなかったんだろうね C13　「海のいのちだと思えた」って書いてある。大魚を殺すってことは，海の命を奪うことになるから，太一がクエを殺してはいけないと思ったってこと。 C14　じゃあ「海のいのち」って？さっきの「千匹に一匹」も関係あるかな。 C15　千匹に一匹って魚を無駄にとらないことだよね。 C16　そうか。海の魚を一気にとらないで残しておけば，また次の日もとれるってことか。 C17　「海のいのちって続く」にする？この線が引いてあるところが全部つながってくるよ。	る。 ○　どこからそう感じたり考えたりしたのか，根拠となる叙述や経験を挙げさせるようにする。 ○　考えの基になっていることを明確にさせる。叙述が取り上げられた場合には，教材文に立ち返る。 ○　グループの学習シートに書き込ませる。 ○　人物の行動や会話文，そこからわかる考え方等を叙述に立ち返って確かめさせる。 ■　叙述を基に考えたことを述べている。（話し合いの様子） ■　話し合いに意欲的に参加したり，互いの考えの共通点やつながりを見付けようとしたりしている。（話し合いの様子）
4　グループで話し合ったことを全体で共有する。 （１２分）	T4　グループで話し合ったことを紹介しましょう。 C18　ぼくたちのグループは，「海のいのちって続く」にしました。「千匹に一匹」や「殺さないですんだ」というのは，海にすむ魚の命を大事にしていることです。魚を無駄にとらな　いようにすれば，魚のいのちも続くし，漁師の生活が安定して続いていくからです。 C19　私たちも「海のいのちって続く」にしました。理由は少し違っていて，おとうや与吉じいさが「海に帰った」ってあって，本当はなくなったんだけど，太一が漁師を続けることで二人の生き方が太	○　グループ「海のいのちって○○」を黒板に貼る。座談会で使ったグループの学習シートをもとに根拠となる叙述を掲示してある全文拡大掲示に書き込む。 ○　発言をたどり，関連付ける。 ○　道徳の時間に捉えていた「い

	一に続いているからです。 T5　紹介し合ったことをまとめましょう。 「海のいのちって○○」はいろいろな捉え方ができる。叙述をつなげて考えたり，人物の心の葛藤や変化，人物同士の関係に着目したりして読むとよい。	のちって○○」と合致しないことを確かめる。 ○　まとめのプレートを位置付ける。 ○　「まとめ」は取り立てて板書せず，全体交流で出された考えや指摘された叙述を確かめることでまとめとする。
終末 5　本時の学びを振り返り，自分なりの「海のいのちって○○」をまとめる。 （８分）	T6　「振り返り」を書きましょう。「海のいのちって○○」について頭括型で５文以上自分の考えを書きましょう。 C20　（記述）私は，「海のいのちって大きい」としました。初めは海にすむ生き物の命のことかなと思って，「海のいのちっ大事」とていました。でも，読んだり話し合ったりしているうちに，海の生き物の命のことだけではないと分かりました。「千匹に一匹だけ」というのは，海の生き物の命を守ることにもなるし，漁師が魚をずっととれるように，少しずつとるということだと思います。大魚はみんなのいのちを表しているから大きいのだと思いました。 C21　（記述）私は「海のいのちってつながるもの」にしました。前は「海のいのち」という意味がよく分かりませんでした。話し合っているうちに，海の生き物も海で仕事をする人もみんなの命を全部まとめて「海のいのち」ということかなと思うようになりました。初めは「海で生きる」という意味がよく分からなかったけど，Ａさんが言っていた「人も魚とかと同じように自然の中で生きる」というのがいいなと思いました。	○　振り返りのプレートを位置付ける。 ○　座談会の前と後の自分の考えを比べたり，友達の考えと比べたりして書くように促す。 ○　書くことに抵抗がある児童には文の型を示す。 ■　「海のいのちって○○」について，本時の学習を振り返り，自分の考えを５文以上で「振り返り」を書いている。（ノート）

（４）　評価

「振り返り」で評価する。

（Ｂ）　読書座談会を通して気付いたことをもとに「海のいのちって○○」についての自分の考えをまとめている。

例）Ｃ２０，Ｃ２１

７　参考文献・資料

・新しい国語編集委員会『新編　新しい国語６　教師用指導書　研究編』（東京書籍）

・国立教育政策研究所　教育課程研究センター（2016）『小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った「読むこと」の授業づくり～』

・成家亘宏・成屋雅史（2014）『教材別・単元展開の可能性に挑戦する６「海の命」の授業』（東洋館出版）